

四、道路法第四十條の負擔は通常の豫算定額より之を支出すること。

### 支那の道路改良

(在天津帝國領事館管轄區域内の事情)

元來支那に於ける道路は「前車の覆るは後車の警め」の諺を生したるが如く凹凸甚だしく殊に北支一帯の地に於て道路は平地より低きを通例とするを以て降雨の際は道路變して河となり又各處に潦水を生じて不便此上なく加ふるに範圍の廣大なると官憲の無誠意の爲に多くは之を棄てて顧みず殊に山西省の如き山國に在りては道路交通の不便言語に絶するものあり最近閩督軍は兵工築路即ち兵士を利用して道路修築の計畫を實施し民國十二年六月現在に於て山西省道延長約一千里(自動車を通し得)を完成したる由なり直隸省に於ては最近米國赤十字社の義捐的幫助により北京天津間及保定間に自動車を通し得る道路を修築したり直隸省内主要道路は次の如し。

イ、天津北京間 天津より揚村張家灣通州を経て北京に達するもの約三十九里(日本里)

ロ、天津山海關間 天津蘆臺樂亭昌黎等大體京奉鐵道と併行して山海關に達する約七十二里

ハ、北京山海關間 通州豐潤永平等を經る七十六里

ニ、北京喜峯口間 通州より薊縣遵化等を経て長城喜峯口に達す此道路は更に熱河朝陽奉天方面に連る

ホ、北京右北口間 懷柔密雲等を経て長城古北口に達し内蒙古に入る

ヘ、北京張家口間 昌平懷來宣化を経て張家口に達す約五十七里 此道路は一方庫倫恰克圖に一方大同豐鎮歸化城(綏遠)に達す

ト、北京より保定正定趙州順德等を経て河南に入るものチ、北京より涿縣河間景縣を經山東に入り濟南に達する線リ、天津保定間に最近自動車を運轉し得る道路を修築せりヌ、天津より楊柳青に出て津浦鐵道と大體併行して馬廠滄州等を経て山東省に入るもの

ル、太原大同間 太原より北行忻縣雁門關を經るものヲ、太原より河南に通する線 沁縣に於て二分し一は東行して襄垣より河南涉縣方面に入り直隸省順德に達す一は西南行して臨汾曲沃等汾河の流域を經て潼關に達すワ、太原より陝西に通するもの 西行交城汾州離石等を経て黄河に到り陝西榆林方面に達す

カ、太原より東行平定を經て娘子關を過ぎり直隸省正定に達するもの 以上